

<保育者の願い：畑の活動を通して、野菜の世話をする大切さ、生長の喜びを感じて欲しい。>

昨年、畑の活動を経験した5歳児は「今年も野菜を育てたい」と意欲を持ち、苗や種を植え、世話をしながら生長を楽しみにする。畑の名前を考えて「あったかおひさまファーム」に決める。

<事例 しいたけ栽培>

おひさまの光がなくても育つ植物があるって！5月8日

- ・H児が「光が当たるほうがいい野菜と当たらないほうがいい野菜があるっておじいちゃんから聞いてきたよ」と話をする。「もやし、カイワレ、しいたけ」は光が当たらないほうがいいと聞き、みんな興味をもつ。

しいたけ博士に聞いてみよう 5月26日

- ・JAの専門家に来てもらい、しいたけの特徴や育て方について真剣に話を聞く。特に太陽の光がいらぬことを不思議に思い、「**どうしておひさまに当たらなくてもいいの？**」と、**何度も質問する。**
- ・しいたけ菌の菌床をもらい、幼稚園でしいたけを育てるのにどこが適した場所か、一緒に探す。



菌床を置く台を自分たちで作ろう 5月29日

- ・一人一人が釘を打ち、台を作る。
- ・日陰で湿気の多いテラスの場所に置き、台の上に菌床を並べる。
- ・立て簾でさらに日陰を作る。

たくさんできて嬉しい！ 5月30日～

- ・毎朝、水やりをしながら「大きなあれ」と声をかけ、一晩ごとに大きくなっていく様子に友だちと喜びを伝え合う。
- ・触ってみると柔らかくて「ぶるんぶるんだね」と驚く。
- ・次々しいたけが生えてきて100個以上できる。

<クッキング>バター醤油炒めにして食べる。「おいしい！たくさん出来たから他のクラスに分けてあげたいね」各学級に配り、給食でも使ってもらう。

しいたけが生えなくなった... 6月29日

- ・菌床からしいたけが生えなくなる。「出ておいで」と声をかけて世話を続ける子、関心が薄れていく子と様々である。
- ・しいたけができない原因をいろいろ考え話し合う。
(「水のやり過ぎじゃないかな」「日が当たり過ぎたかな」「温度計で29度だったよ」)
- ・しいたけ博士の手紙には20度がちょうどいいと書いてあるが、20度よりだいぶ暑いことに気づき、「どうやって冷たくしようか?」と考える。
- ・子どもたちの提案からクーラーボックスで菌床を冷やしてみる。(保冷剤を入れる。温度計で計る)「冷たいね」「まだ生えないかな」と覗き込む。

これ何?? かび~!!

- ・朝来てクーラーボックスを開けてみると菌床の周りが白くなっているのを見つける。(「なんだー?これー!!」「綿菓子みたい」「たんぼぼの綿毛にも似てるね」「氷が集まったのじゃない?」)
- ・虫眼鏡で拡大して見てみる。「小さいのが大きく見えるね」「ふわふわしてるね」「家でもしいたけ育てたけど、こんな白いのが生えたよ。たぶんかびだよ」「かび~!!」「しいたけはかびの仲間だけん、集まってきたんじゃない。でも白いけん仲間じゃないかも」「お菓子にかびが生えたことがあるよ」など気づいたことや考えたことを話し合う。
- ・保育者が「なんでかびが生えたのかな?」と問いかけ、「冷たすぎたんじゃない?」「冷蔵庫にずっと入れておくとかびが生えるよ」「ずっと入れてたのがだめだったかも」「どうしよう。しいたけ大丈夫かな?」など話し合い、子どもたちの疑問を、しいたけ博士に尋ねることにする。ファックスで聞いてみる。
- ・洗い流せば大丈夫であることが分かり、安心する。すぐに洗って世話を続ける。

Q菌床に白いかびみたいなのが生えました。この白いのは何ですか?どうしたらいいですか?

Aかびですよ。洗い流せば大丈夫です。クーラーボックスに入れるのは午前中だけにした方がいいよ。

[考察]・日陰を好むしいたけとの出会いは、子どもたちにとって

- とても興味深いものであった。おひさまの光に当たらなくても育つこと、木を食べて大きくなることなど初めて聞くことばかりで、驚き、不思議さを感じていた。
- ・実際に育てると、次々に育っていく嬉しさや、世話をしてもなかなかしいたけが生えてこない時期のもどかしさなどいろいろな思いをもった。育たないのはなぜか、子どもなりに考えたり、かびを生やしてしまった失敗の経験をしたりして、しいたけへの思いがますます深くなっていた。
- ・おひさまへの興味から発想の転換で、日陰にも関心を持つことができた。しいたけというよく知っている食材がどのように育っていくのか体験として知ることができたこと、解決しようとしていったことは生活につながる科学の心の芽生えであったと思う。



しいたけの様子を表現した作品(壁面装飾)

影やかびについての疑問をもち、解決しようとしていったことは生活につながる科学の心の芽生えであったと思う。

みどころ

意欲的に栽培活動を進める5歳児が、「おひさまの光がなくても育つ植物がある!？」と知り、地域の専門家に具体的な話を聞くことで、「やってみよう!」としいたけ栽培が始まります。畑作りの経験もあるので、菌床作りや毎日の世話を進んで行くことはもちろん、生長を喜びながら観察をしています。味わうことでますます興味が深まり、生えなくなったことが「どうしてだろう?」と考えることに結びつきます。詳しい情報を得たことで、具体的に温度を気にしたりかびが生えるという異変に気づき考えたりする姿も引き出されています。

「不思議」に思うことで、興味や意欲、目的意識になり、追求する思いや行動が表れています。